

自主性を育てる学級指導
—学級新聞・壁新聞作りを通して—

古 川 絃一郎

How to cultivate students' independence of mind through wall newspaper publication

Koichiro Furukawa

豊岡短期大学 論集

第 14 号 別 冊

平成 30 年 2 月 28 日 発 行

自主性を育てる学級指導—学級新聞・壁新聞作りを通して—

How to cultivate students' independence of mind through wall newspaper publication

古川 紘一郎

Koichiro Furukawa

はじめに

本研究では、小学校・中学校を中心にして、教育課程に設けられた領域の一つである特別活動の考察を行った。特別活動は、各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間と並んで、小・中学校、高等学校、特別支援学校の教育課程に設けられた領域の一つであり、教育目標を達成するための重要な教育活動なのである。

第1 特別活動の目標

小学校における特別活動の目標は、小学校学習指導要領（平成20年3月告示）において次のように示されている。（ ）の部分は、中学校である。

望ましい集団活動を通して心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団（や社会）の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己（人間として）の生き方についての考え（自覚）を深め、自己を生かす能力を養う。

さらに、小学校の特別活動は、学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事の四つの内容、中学校では学級活動・生徒会活動・学校行事の三つの内容である。部活動は希望者のみである。各活動・学校行事については、それぞれの目標が示されている。その中で「学級活動」の目標については、

学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。

特別活動の目標の中心となる事項としては、「自主的、実践的な態度を育てる」「集団活動を通して」さらに「望ましい人間関係」があげられる。

次に、「学級経営」については、

日頃から学級経営の充実を図り、教師と児童の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係を育てるとともに、児童理解を深め、生活指導の充実を図ること。

このように学級経営の充実のために、児童によりよい生活作りや人間関係作りが重要だとしている。また、「学級活動」では、いずれの学年においても取り扱う内容を【共通事項】として、「（1）学級や学校の生活づくり」と「（2）日常の生活や学習への適応及び健康安全」の二つを示している。

その中で前半の「（1）学級や学校の生活づくり」の活動では、教師が助言的な指導をしつつも児童の話し合い活動を中心にして、主として学級の運営を児童が主体となって進めようとする内容である。この自主性を育てる学級指導の具体的な事例として、「学級新聞・壁新聞を通して」述べてみた

い。

第2 特別活動の実践指導

そこで、本稿では特別活動の学級活動で「(1) 学級や学校の生活づくり」についての実践事例を上げて研究を深めたい。

○ 学級活動における実践活動 ～学級新聞・壁新聞を通して～

学級新聞や壁新聞を作った経験のない児童・生徒を指導するのは大変であるが、作り上げた時の満足感や学級のために貢献したという充実感は大きなものである。学級新聞や壁新聞は学級の諸問題を発見する目を育てるとともに、学級集団の発展に貢献するものとする。そこで、学級活動における実践活動の事例として、(1) で学級新聞作りを、(2) で壁新聞作りを取り上げてみたい。なお、(1) で学級新聞作りでは、以前作成したものであるがそれに加筆訂正を加えた。

1 学級新聞作りについて

(1) 学級新聞の目標

学級生活の中に、学級に対しての所属感や連帯意識が高まってくると、学級の中の諸問題について何らかの形で解決の方策が児童・生徒たちの間に生まれ始めてくるもの。その過程で学級の中の児童・生徒一人一人の問題点や悩みなどを学級全体の問題として取り上げ解決していくと提案される。そこで学級活動の時間が設定されて話し合い活動が行われ、何らかの解決の方向性が見い出されるのである。それを学級新聞を通して考えたいと思う。つまり、学級生活の諸問題を自分たちの問題とし、話し合いの場として学級新聞を作り、育てていくことによって、学級のモラルを高め、自主性、創造性、協調性、連帯感等を養って、児童・生徒一人一人に学級生活を充実し、改善していく意欲をもたせたいということ。また、児童・生徒一人一人の個性の伸長、能力の開発も可能になってくる。このように学級新聞は、学級を明るく楽しくするために作られるもので、どんな小さな意見でも取り上げ、学級という仲間意識を育てつつ、一つにまとめていく力を持っているといえる。

① 学級新聞のねらい

ア 学級新聞を通して、よりよい学級づくりをする。

イ 学校生活や社会(友だち、教科、先生、保護者、地域社会、)の結び付きを育てていく。

ウ 学級のできごと、歩みなどの記録性や啓蒙性と共に、マスコミに対する視野を広げ、併せて文章力を養成する。

② 新聞教育の領域・・・新聞学習と新聞活動

ア 新聞学習・・・新聞利用の学習及び新聞理解の学習

国語科における新聞学習、例えば表現する意欲を起こさせる指導として

- ・ ニュース記事と見出し・・・記事の要点と簡潔で効果的な表現の工夫。
- ・ コラム記事と題・・・記事に親しみ、主題や意図をとらえる。
- ・ 投書を読んで・・・記事の主張・立場・意図をとらえ、共感や反論を文章に書く。

などが挙げられているが、国語科のみならず、社会科をはじめ各教科で新聞を授業の教材として利用する学習である。

イ 新聞活動・・・新聞製作活動及び発行新聞の活用

- ・ 新聞製作活動
 - 学級新聞・学校新聞・個人新聞
 - 壁新聞（はりつけ新聞・寄せ書き新聞・壁新聞・立体新聞）
- ・ 発行新聞の活用
 - 学級通信（便り）・学年通信・教科通信・部活通信
 - PTA 広報新聞

③ 学級新聞の製作活動・新聞活用の意義

○ 目標

- (1) 学級や学校生活の充実と向上
 - ・ よりよい学級集団づくりや係活動の育成
- (2) 自発的、自治的な活動の展開
 - ・ 主体的、創造的文化活動の育成

教師の適切な
指導助言

○ ねらい

- ・ 自主性 ・ 創造性 ・ 啓蒙性 ・ 報道性 ・ 速報性
- ・ 記録性 ・ 活動性 ・ 社会性 ・ 学習性 ・ 協調性
- ・ 向上性 ・ 技術性 ・ 批判性

○ 連帯・
表現活
動の場

- (1) 新聞づくりのための学級組織作り
- (2) 第一次編集会議
 - ① 新聞名の決定
 - ② 係・分担の決定と活動上の諸注意
 - ③ 企画記事の選択及び仮の割り付け
- (3) 取材活動及び原稿作成
- (4) 第二次編集会議
 - ①記事の見直しと整理
 - ②見出し付け
 - ③割り付けの工夫
- (5) 清書、印刷、発行
- (6) 合評会（学級活動への活用）

(2) 連帯・表現活動の場の実際

仲間意識を育て、明るい学級生活を目指して、これから学級新聞を作っていこうとする学級

のために、実際の手順について説明していこう。

① 学級活動で「学級新聞を作ろう」という題材で話し合いをもつ。

題材としていきなり「学級新聞を作ろう」とすると、児童・生徒の中には抵抗感もある。学級新聞を作るというには苦勞も多いし、学級の協力態勢がないと長続きしない。そこで、それぞれの学級生活にに応じて「なぜ新聞づくりをするのか」という意識付けをすることが必要である。例えば、学級新聞を作ることによって、学級の意欲を高め連帯感を強めようなど、班長会や短学活を利用して雰囲気づくりを高めておくことが大切である。そこで指導案を紹介する。

議題 「学級新聞を作ろう」

本時の目標

よりよい新聞を作るため、一人一人の協力をまとめて仕事をするための方法や、新聞の内容について理解させ、新聞づくりへの意欲を起こさせる。

活動計画

	活 動 内 容	指 導 上 の 留 意 点
提 案	1 開会 2 先生の話 3 提案理由の説明	・協力し合うこと。初めての試みであることで、一人一人の意欲を起こさせる。 ・提案はゆっくりわかりやすくさせる。
話 し 合 い	4 協議 (1)学級新聞の目的と組織はどうか。 ・学級・男女・班別か (2)体裁・内容について ・何を取り入れるか ・新聞名の決め方 ・発行回数 (3)係について ・どんな係が必要か ・取材の仕方 ・編集の仕方	・作っていこうとする意欲をもたせる。 ・質疑を十分に取り、この内容を理解させる。 ・係活動として、学級新聞系の必要なことに気づかせる。 ・「編集から発行まで」のプリントを配布する。 ・学級新聞形式か壁新聞形式でいくかを決めさせる。 ・必要によっては、グループでの話し合いも考えさせる。 ・新聞作りをした経験者に、どんな係が必要かを説明させる。また、苦勞した点や良かった点などを話させる。 ・取材や編集の仕方はプリントで説明する。
ま と め	5 決まったことの発表と確認（書記） 6 先生の話 7 閉会	・放課後の時間を有効に使うことや、家庭に持ち帰って作らないことなど、学級全員の協力で完成するように話してやる。

② 学級新聞作りのための組織

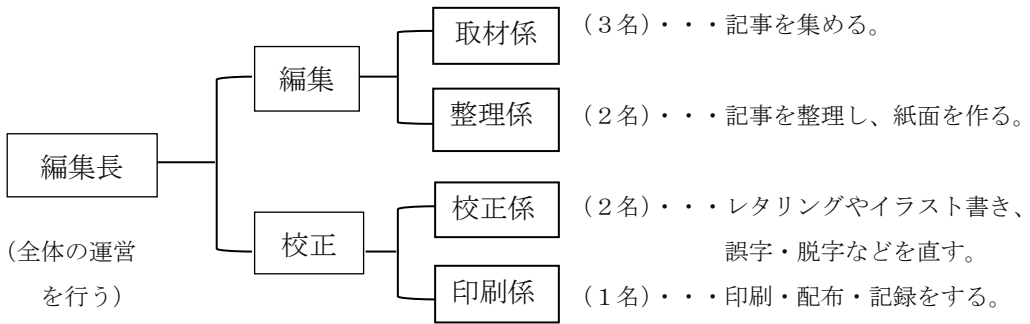
ア 独立した新聞系の組織

学級の中に一つ独立した新聞係（新聞部とか広報委員会）を作り、そこで企画から発行に至るまでを全部やっていく方法である。人数は7～8人位にし、年間を通したものがよい。学級経営上のいろいろな面から配慮して、学期交代とか、前期・後期交代などが考えられる。

イ 班別交代での組織

学級の中を幾つかの班に分けて組織づくりをしている場合、例えば、生活班と学習班、生活班と奉仕班など、どちらにも属しているとか、また生活班（普通6～8班構成）でしている場合などいろいろ考えられる。その場合には、班別に1週間交代とか月間交代で作っていく。ある班が遅れるとか作らなかったとなると長続きしない。それゆえ協力態勢が大切になる。

③ 編集のための組織



④ 学級新聞づくりの順序

企画 → 仮の割り付け → 取材 → 記事を書く → 割り付け → 整理・印刷

ア 第1次編集会議をする。

a 新聞名の決定

学級の全員から新聞名を募集し、年間を通じて変えない上品な名前がよい。題字が決まったらデザインを募集する。新聞発行ごとに題字のデザインは変化させてもよい。

b 係分担の決定と活動上の注意点

活動上の注意点として、次のことを指導しておくといよい。

- ・新聞づくりの意義や重要性を認識させる。
- ・書く自由の保障と責任を自覚させる。
- ・続けて作ろうという雰囲気づくりをする。
- ・新聞づくりの約束事を決めておく。
- ・記事の良し悪しを教える。

c 企画記事の選択及び仮の割り付け

新聞の良し悪しは、「企画記事と見出し」によって決まると言ってもよいくらいである。

ア) 企画記事の分類

〈内容面から〉

- ・学校行事や学級の動きにつながるもの。
- ・行事や季節につながるもの。
- ・ものの見方や考え方につながるもの。
- ・教科につながるもの。

〈形態面から〉

- ・アンケート ・調査 ・座談会 ・インタビュー ・訪問
- ・依頼原稿 ・娯楽 ・解説 ・その他

イ) どんな企画がよいか。

- ・児童・生徒が興味・関心を抱くものであること。
- ・みんなが気付かない大切なこと。
- ・なるべく新鮮で身近なこと。
- ・学級生活に役立ち考えさせるものであること。
- ・結果より過程に重点をおくこと。
- ・多方面から問題を探ること。

イ 取材活動及び原稿作成

a 新聞記事の心得

- ・5W1Hを記事の中におこむ。
- ・片方だけを取り上げず、両方とも同じに扱う。
- ・ウソを書かない。間違いは次号で訂正する。
- ・わざと大げさに書かない。
- ・記事に記者自身の意見を加えない。

b 記事の良し悪し

良 い 記 事	や め た い 記 事
・学校内のできごと、求めている記事 ・考えてもらいたい、知ってもらいたい記事 ・学級の友だちが参加した行事や諸活動の記事 ・学級生活に関係深い人たちのことや事柄の記事など	・新聞・ラジオ・テレビなどの一般ニュース ・マンガ・笑話・クイズの類（創作はよい） ・芸能界、プロ野球などの記事 ・宗教・政治に関すること ・全く個人的なものや中傷記事 ・みんなが不快感をもつもの

＊ その新聞にあった割り付け用紙や原稿用紙（行数や字数がわかるようにした用紙）をたくさん用意しておく、紙面に移すときに便利である。

c 取材の態度

- ・目・耳・足を使って取材ノートに書く。
- ・アンケート・座談会・インタビュー・ルポルタージュなど積極的な取材活動が大切である。

ウ 第2次編集会議

a 記事の見直しと整理

- ・内容にまちがいはないか、オーバーな表現はないかなど。

- ・誤字・脱字・送り仮名に誤りはないか。
- ・「です体」「である体」など、文体が統一しているか。

b 見出し付け

- ア) 記事の内容や要点を一目で読む人にわからせるものになっているか。
- イ) 見出しの種類・・・縦見出し・横見出し・割り込み見出し・中見出し・かぶせ見出し・トッパン見出しなどがあるので、工夫して丁寧なレタリングで書く。
- ウ) 見出しを付ける時の注意
 - ・見出しは、対角線にそって配列する。
 - ・二本見出しの場合、同じ品詞になったり、言葉が重複したりしない。
 - ・文語は好ましくないし、型にはまった古くさい言葉は使わない。
 - ・漢字ばかりの見出しや体言止めはさける。
 - ・内容を的確に表し、魅力ある見出しにする。

c 割り付け（レイアウト）の工夫

- ア) 割り付けは、各記事の位置・行数・見出しの位置・大きさ・写真・カットなどの位置・大きさなどを正確に決めること。なお、固定している記事は、毎号なるべく同じ位置にとるようにする。
- イ) 割り付けは、なるべく縦に流す。横に流していくと読みにくく疲れる。ただし、縦に流す場合も上から3分の2程度で止める。あまり下まで流すのはよくない。なお、かこみ・よせつけ・通しぐみ（リード）などを、効果的に使うとよい。
- ウ) 割り付けの禁止事項として、両流れ・泣き別れ・重ねもち・底づき・腹切り・よせつけの乱用・飛びこし・飛びおりなどがあるので注意する。

エ 清書・印刷・発行

- ・欄外に発行日と発行番号を、題字の下には発行所と発行責任者を忘れずに明記しておく。
- ・学級の生徒全員に配布するとともに、先生方や各学級に配ったり、廊下に掲示したりすることは、新聞作りの啓発にもつながる。

オ 合評会（学活への活用）

新聞は発行することだけが目的ではなく、新聞を通して新しい生活を創造していくことに発行のねらいがある。発行されたらぜひ時間をとって、内容から学級討議に発展すれば、新聞作りの最大の収穫である。

2 壁新聞作りについて

前半で、「学級新聞作り」について述べてきたが、学級新聞では毎週1号ずつ発行するのであるが、壁新聞となると毎週作成するというわけにはいかない。というのは、両方とも「新聞」といっても種類が全く違うということである。どこが違うかというところ、

項 目	学 級 新 聞	壁 新 聞
1 新聞の大きさ	・A3かA4の用紙	・広用紙のグラフ用紙
2 編集のための組織	・学級の中に一つ独立した新聞係(班)を作る。	・壁新聞作成のための組織5～7名を中心に作成する。
3 発行回数	・毎週とか2週間又は1か月毎学期毎に発行する。	・年に数回か、各種コンクールに応募するために作成する。
4 色使い	・印刷機がカラー印刷できるタイプであれば何色でも使う	・色付けをして見栄えが大切。
5 コンクール形式	・学級で「作る、作らない」でもめてコンクールができない。	・全学級でのコンクールとか、各種コンクールに応募する。

上記のような差異が考えられるが、いずれにしても「新聞作り」は、やる気がなければ到底出来上がらないのである。学級の和とか意欲など「やる気」のある活発な学級づくりに役立つ活動であることは言うまでもない。これから壁新聞づくりについて考えていくことにする。

「壁新聞を作ろう」

(1) 壁新聞を作る意義について

- ① 学級としての仲間意識を高める。
- ② 学級の一人一人が責任を持ち、協力する意欲を高める。
- ③ 自分たちの結集による作品の価値を認め合い、作り上げる喜びを味わう。
- ④ 学級内の諸問題や、学校・学年の動きを全員が理解する。

(2) 小・中学生らしい壁新聞を作るには

- ① 編集に創意・工夫がなされていること。
- ② 学校生活の話題を中心とし、その生活に基づいた内容であること。
- ③ 読んで楽しくなるもの、学級のだれもが理解されるようなものであること。
- ④ 学級全員の協力によって作り上げること。
- ⑤ 継続されるような計画を立て、中途半端に終わらないこと。

何よりも、こんな新聞では恥ずかしいという気持ちは捨てて、まずは気軽に作ってみようということで始め、編集の話し合いを重ねるごとに内容の充実を高めていくとよい。

(3) 編集のための組織づくりについて

① 編集委員の構成メンバー

- ・学級委員男子1名、女子1名と3名互選する。(壁新聞作りのための特別メンバー)
- ・広報班5～6名。
- ・グループの輪番制にする。グループは新聞作りを手伝いたいもので記事作りをする。
- ・希望が少ない場合は、他の班が順番で班の活動内容を記事にするなど。

② 編集委員会の活動

- ・毎日の放課後及び昼休み。

(4) 記事の内容(次頁の図を参照)

- ◎ 見出し①・②には、学級で取り扱う最も大切なニュース。メインニュース。
- ◎ 見出し③には、建設的な意見や主張・論説。
- 見出し④には、今週の話題・学級内の諸活動の動きなど。
- 見出し⑤には、先生や友だちのプロフィール・班活動の様子など。
- ◎ 見出し⑥には、学校・学年の動き・児童会や生徒会からの連絡。
- 見出し⑦・⑧・⑨には、私達の作品(詩・短歌・俳句・マンガ・絵画・写真・紀行文など)・趣味コーナー・学習コーナー・教養コーナー・スポーツコーナー・年中行事紹介・週間行事・クイズ・編集後記など。

(5) 作成上の工夫

- ① 見出しは、なるべく左斜め下にそろえるようにしたい。
- ② トップ記事は、必ず学級のニュースを持ってくることが大事。学級の中での関心事は何か、そこを見抜くことが最も大切なことである。
- ③ 重大記事については、見出し→リード→内容(本文)の原則に従いたい。
- ④ 見出しの工夫をする。
 - ・読みやすい・わかりやすい・感じがよい・魅力があるなど。
- ⑤ レタリングの工夫をする。
 - ・同じような文字の見出しでは、魅力がないので、レタリングデザインなどを参考にして、見出しの工夫をする。
- ⑥ カット絵は、切り抜きよりも「イラストやマンガ」のうまい者で描く。
- ⑦ 色彩感を通してアピールし、印象を強くするように工夫する。
- ⑧ パッと見て、思わず読みたくなるような、魅力のある記事を書ける。
- ⑨ 文字は正確で、丁寧に書く。誤字のある記事は読む気にさせない。
(最初は鉛筆で薄く下書きをしておき、辞書を手許に置いて誤字がないようにする。)
- ⑩ 腹切りがないか注意する。

(学級新聞・壁新聞の基本型の例・・・「幼稚園、保育園だより」にも応用できる)

平成〇〇年〇〇月〇〇日

第 〇 〇 号

(囲みの飾り罫) 見出し③ (意見や主張など)	大見出し① (メインニュース) リード(前文) 見出し②		題字 (奥付) 発行所 発行所在地 編集代表者
	見出し⑤ (班活動など)	見出し④ (学級内の諸活動など) ⑦ (私達の作品など)	
⑨ (編集後記)	⑧ (週間行事など)		

1行8字 36行×9段

1行10字 36行×8段

1行12字 36行×7段

参考文献

- 磯貝敬 学級指導・学級会活動実践事典1 暁教育図書(東京)188-189, 1970
- 杉田儀作 学級会活動・学級指導の実践資料1 暁教育図書(東京)202-204, 1980
- 杉田儀作 学級会活動・学級指導の実践資料2 暁教育図書(東京)203-205, 1980
- 高田哲郎 学級の文化を作る学級新聞 民衆社(東京)5-55他, 1986
- 宇留田敬一 中学校学級経営事典 改定新版 小学館(東京)188-189, 1987
- 特別活動実践講座刊行会 特別活動実践講座5 ニチブン(東京)165-171, 1990
- 宇留田敬一 中学校学級担任実務事典 暁教育図書(東京)106-107他, 1992
- 原清治 特別活動の探究 学文社(東京)15-16他, 2007